

— 表示の認識について —

文化女大 三吉満智子 甲南女大 木岡悦子 大妻女大人間生科研
 ○布施谷節子 静岡大 大村知子 東海学園女短大 辻 啓子
 相模女大 永井房子 椋山女学園大 中保淑子 京都女大 福井弥生

目的 衣料表示については内容の的確性はもちろんのこと、消費者の理解のしやすさ、活用のしやすさが重要な問題となる。殊に、乳幼児衣料については表示ラベルが皮膚に与える刺激や、洗濯の耐久性や、購入・選択が着用者本人ではなく主として母親である点に特異性がある。そこで、本報では母親が表示をどのように認識し、活用しているかを知り、今日の乳幼児衣料の表示にかかわる諸問題を明らかにすることを目的とする。

方法 資料は第1報と同じ質問紙調査によって得られたものである。調査対象者一家族における子どもの数は平均約1.72人であり、出生順位は第1子が約47%、第2子までで約86%を占めている。本報では全質問調査項目の中から表示にかかわる14項目を取り上げて、性別・月齢群別・出生順位別の検討と併せて成人衣料の表示についての調査結果と比較を行った。

結果 ①サイズ表示に対する母親の認識は高く、産後までにはほぼ全員が認識し、その中で90%以上が正確に認識していた。②身長単一表示より身長を含む2項目の組み合わせ表示を望む割合が高く、殊に乳児期後半で過半数を超えた。さらに出生順位が第1子の場合はこの傾向がより顕著であった。③表示ラベルの問題点はラベルの位置と材質に集約された。問題意識は第1子より第2子以降の子どもをもつ母親の方が高い傾向だった。④洗濯やアイロンがけの際の取り扱い絵表示・組成表示に対する信頼度は約50%だった。表示に依存しない主な理由は常識判断に頼るからというものであった。